

自然観察ちば 研修会

今だから！ 野生動物を知るという選択

白波 志帆（千葉市）

日 時：2025年11月22日（土）11：00～15：30

場 所：多摩森林科学園（高尾駅北口から徒歩7分）

講 師：岡 輝樹氏 多摩森林科学園（主任研究員）

参加者：31名（自然観察ちば14名、研修担当：佐野・川瀬・白波）

高尾駅近くということもあり気温の低さを心配していましたが、最高気温17℃とぽかぽか陽気の中で研修会をスタートすることが出来ました。まずは佐野さんによる樹木園内の観察会。多摩森林科学園には昭和初期から国内外の樹木が植えられ約500種類もの樹木があります。美しい紅葉の中で、ユクノキやイチイガシなど珍しい木もたくさん観察することができ、終始笑いの絶えない和やかな観察会となりました。

各自昼食を挟み、多摩森林科学園内、森の科学館で開催されている企画展『クマ、知るという選択』を見学。クマの生態を学ぶだけでなく、実際にクマの手や足、鋭い爪などにも触ることができた上に、被れる頭骨のレプリカまでありよりリアルにクマを感じることが出来ました。

予定通り14時より研修会開始。データを元にした専門的な講義でしたが 岡さんの解りやすくユーモアを交えた説明がとても面白く あっというまの1時間でした。事前に企画展でクマの基礎的な知識を学んだ上での講義であったため、より理解が深まりました。

クマの有害駆除数の増加にはブナやドングリの凶作が関係していますが、そのブナの実の再生産機能自体が2000年以降不安定化している。そもそもクマの腸は牛やウサギなどとは違い人間に近く（植物を消化するための特別装置がない）消化が早くエネルギー要求量が高いため食べ物に対しての執着がとても強いのだということを知りました。

メディアで報じられているような人に慣れたクマはほんの一部であり、街中に出てきてしまったクマは、完全にパニック状態になっている。入ってくる情報を鵜呑みにするのではなく正しい情報で地域社会を動かしていくことが大切。クマを駆除して終わりではない。今後の対策としてはクマに開けられないようなゴミ箱の設置、柿などの管理されていない果樹を切るなど誘引物の除去、バッファゾーンを作るなど、再設計と境界の取戻しがより重要だということ学びました。

『“知る”ということは学ぶ事ではなく自分ごととして捉え、地域の判断力を養う事である。』という言葉がとても心に深く響きました。



観察会の様子



企画展会場



研修会の様子